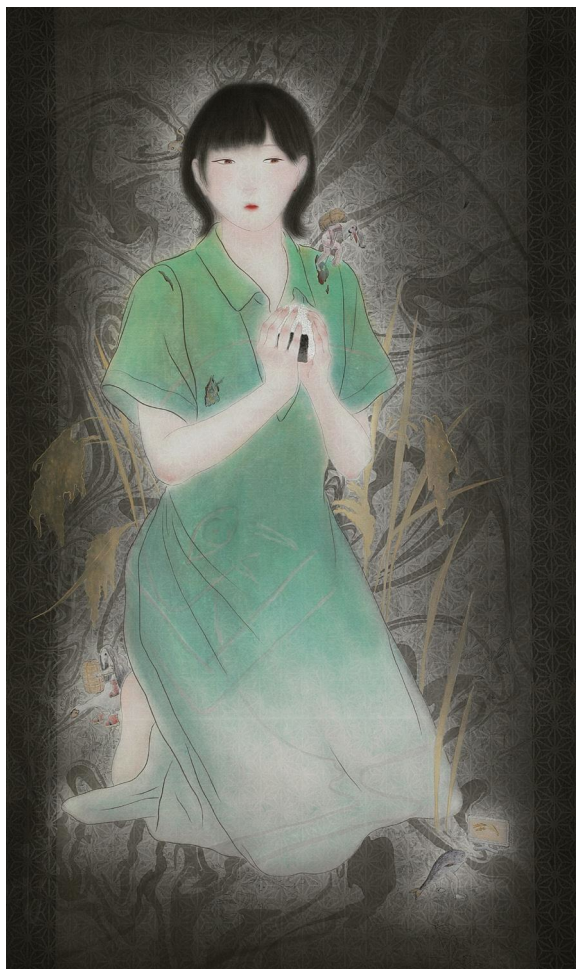


日本画

【佐藤太清賞】



奥野 久美子 「混迷」

絵画

【佐藤太清賞】



立花 純玲 「小道の探索」



宮島 かなえ 「Day by Day」



河野 優月 「いい人」

福知山会場
2025.1.16(木)～20(月)
午前10時～午後6時 期間中無休 入場無料
福知山市厚生会館 京都府福知山市字中ノ170-5
TEL.0773-22-4955
表彰式 1.18(土) 13:30～

横浜会場
2025.1.24(金)～27(月)
午前11時～午後6時 期間中無休 入場無料
横浜赤レンガ倉庫1号館 神奈川県横浜市中区新港1-1-1
TEL.045-211-1515

東京会場
2025.2.6(木)～9(日)
午前9時30分～午後5時 期間中無休 入場無料
成増アクトホール 東京都板橋区成増3丁目11番3-4F
TEL.03-5998-6881

京都会場
2025.3.5(水)～9(日)
午前10時～午後6時(5日は午後1時から、9日は午後5時まで)
期間中無休 入場無料
京都文化博物館 京都府京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888

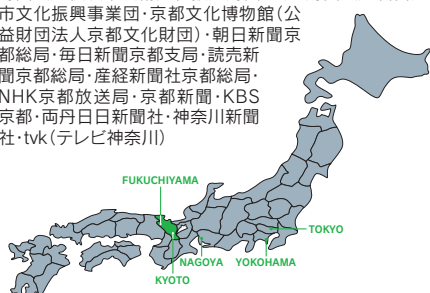
名古屋会場
2025.3.11(火)～16(日)
午前10時～午後6時(16日は午後5時まで)
期間中無休 入場無料
名古屋市民ギャラリー矢田 愛知県名古屋市中区大幸南1-1-10 カルポート東3階 TEL.052-719-0430

※会期中福知山市内各所PR/パネル展示(図書館、各支所 他)

- | | |
|---------------|-----------|
| ■審査員(順不同、敬称略) | ■審査作品 |
| 大矢 頼音 | 絵画の部 67点 |
| 洲鎌 佐智子 | 日本画の部 70点 |
| 福田 千恵 | |
| 村居 正之 | ■入賞・入選作品 |
| 安田 晴美 | 絵画の部 40点 |
| 本橋 弥生 | 日本画の部 30点 |
| 川嶋 渉 | |

※福田千恵先生、村居正之先生は欠席

主催/京都府福知山市・福知山市佐藤太清記念美術館
共催/横浜赤レンガ倉庫1号館(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団)・名古屋市民ギャラリー矢田(公益財団法人名古屋市民文化振興事業団)
後援/文化庁・京都府・京都府教育委員会・東京都板橋区・公益財団法人横浜市芸術文化振興財団・公益財団法人名古屋市民文化振興事業団・京都文化博物館(公益財団法人京都文化財団)・朝日新聞京都総局・毎日新聞京都支局・読売新聞京都総局・産経新聞社京都総局・NHK京都放送局・京都新聞・KBS京都・両丹日日新聞社・神奈川新聞社・tvk(テレビ神奈川)



問合せ 「佐藤太清賞公募美術展」事務局 TEL.0773-23-7021
福知山市文化・スポーツ振興課 TEL.0773-24-7033

<https://f-artcontest.com>

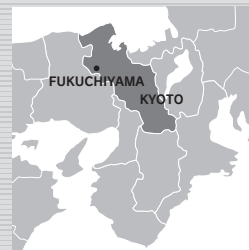


第24回 福知山市 佐藤太清賞公募美術展

Sato Taisei Prize Art Exhibition in Fukuichi, Yamana

第24回
福知山市

佐藤太清賞公募美術展



京都府福知山市出身の文化勲章受章者 佐藤太清画伯(1913～2004)は、現代日本画壇の重鎮として後進の育成にも心を注がれ、現在第一線で活躍する多くの日本画家を送り出されてきました。

福知山市は、その功績を讃え、その志を受け継ぐため、21世紀の芸術文化を担う人材の育成を目的として、高校生・大学生を中心に全国から絵画作品の一般公募を行っています。

今回は、絵画の部67点、日本画の部70点の審査作品の中から、佐藤太清賞、特選、入選に選ばれた70点(絵画の部40点、日本画の部30点)を展示いたします。

第24回佐藤太清賞に寄せて

美術評論家・津和野町立安野光雅美術館館長 大矢 頼音

日本画の部、絵画の部を通じて感じたことは、なかなか良い作品がそろったな、という想いでした。S100号制限いっぱい、あまり構えた大作もなく、描きたいものを描いているという、肩の力を抜いた自然体の姿だったように感じられたのです。私が11年連続で拝見してきた中で今年は殊の外柔らかなトーンを感じて審査を終えました。後で知ったことは、両部70名の入選入賞者のうち男性がそれぞれ1割の7名だったことです。このあたりに微妙な感覚、表現の差異が感じられたのかも知れない、と思いました。

日本画の部 佐藤太清賞

奥野久美子さんの「混迷」。一見すると静かな趣の少女像ですが、そこで表現しようとしているものは深いものを秘めているようです。「混迷」と題された作品の技法は極めて精緻綿密な構成に終始しており、表面の絹地に裏打ちされた紙の模様も繊細で、計算された画面効果を見せています。コロナ除けのアマビエも描かれ、世相を反映したさまざまなことが散りばめられ、静かな少女像に潜むところを描く繊細さを感じました。

絵画の部 佐藤太清賞

絵画の部の佐藤太清賞3点もしっかりした表現で、見る人の心を捉えます。

立花純玲さんの「小道の探索」は良く描けており、切り取ったような青空に浮かぶ雲のたたずまいをはじめ様々な表現に、描写力の高さを感じます。宮島かなえさんの「Day by Day」生き生きとした少女たちの前向きな想いを感じる群像、河野優月さんの「いい人」の端正な画面はそれぞれ印象的でした。

絵画の部 総評

京都文化博物館学芸課長 洲 鎌佐 智子

ここ数年、佐藤太清賞公募美術展の審査に参加しているが、今回、会場に並べられた作品を見て、「コロナ禍からの完全な脱却」を感じた。応募総数が、昨年の54人、59作品を大きく上回り、64人、67作品と増加し、回復基調を示していたことも一因であるが、なによりも作品から滲み出してくる解放感が画面に溢れ出ていたからである。例年、絵画部門は、人物を扱った作品が多い傾向が見られるが、とくに今年は目立って多い印象を受けた。描かれた人物はほぼマスクを付けておらず、満面の笑みを湛えていたり、底抜けの明るい、また愛くるしい表情をしており、見ているこちら側の心を優しく癒してくれた。

一方で、できれば来年は人物以外の画題にも果敢に挑戦してほしいとも思った。もちろん人物を描いた作品は質も高く、伝わるものも大きかったのだが、せっかくの若く瑞々しい感性である。枠に囚われることなく個性を存分に発揮した画面づくりにも多彩さを期待してしまうのである。人物画についても更に深みを増した表現がまだまだ可能だろうと思う。写真とは違った絵画ならではの表現や魅力づくりにもっと挑んでみてはいかがだろうか。

とはいえ、佐藤太清賞には最終的にバランスよく多様な画題の作品が選ばれた。風景画を力強く描いた立花純玲氏の「小道の探索」、

少女たちが何かを見て心を通い合わせる楽しい瞬間を切り取った宮島かなえ氏の「Day by Day」、そして河野優月氏の宇宙ヘルメットを装着した二人の結婚式を描いた「いい人」。この作品は出品作の中では異色のオーラを放っていた。また、横浜賞の竹内優希氏の「縫れ」は丁寧さとテクニックの巧さが印象に残った秀作であった。

今回の入選結果をみると、絵画部門は高等学校1年生から大学2年生までさまざまであったが、女性作者が圧倒的に多い。とはいえこれはあくまで結果としてであり、審査には年齢差や男女差は全く関係がない。表現したいことがどれだけ出せているかや、作品に真摯に取り組む姿勢、そして力強さなどの視点等から見させていただいた。これらはいずれも作品におのずと現れてくるものである。来年も力作が出揃うことを期待している。

日本画の部 総評

日展会員・京都市立芸術大学教授 川嶋 渉

11月25日の審査会で、応募作品70点の中から、受賞作品4点、入選作品26点、計30点を選びました。

応募された全作品からは、挑戦心、意気込みといった若いエネルギーが感じられ、身の引き締まる思いで審査に当たりました。

日本画という括りでの公募ではありますが、和紙に描かれたもの、絵絹に描かれたもの、また、油画で使うキャンバスに描かれたものまで、多様な基底材の作品が並びました。顔料の使い方にも工夫がなされているものが多く、意欲的な作品ばかりでした。自身の表現したかった気持ちを、いかに素材に乗せていくかという研究は、とても重要なことだと思います。そこに、「タイトル」を添えることで作品がグッと引き締まります。今回の審査会で、タイトルと作品の関係性についての言及がございました。その関係が上手く成立しているかどうかという観点も作品の大切な要素と言えるでしょう。

今回受賞された方々の作品に関してのコメントを寄せます。

佐藤太清賞に選ばれた奥野久美子さんの「混迷」は、シンプルな色彩の作品ですが、じっくりと見ていくと、徐々に色々なものが見えくるといった仕掛けがあり、見るものを惹きつける力を感じました。その先には独自のストーリーがあるのでしょうか。

特選 福知山市長賞に選ばれた張豪峰さんの「return」。吹き荒ぶ風の中に佇む人物は、その喧騒とは一線を画したところにいるかのような、静かな表情を湛えている。その動と静の緊張感が、描かれている人物が持つ意志の強さを上手く表現できていました。

特選 板橋区長賞に選ばれた李丹さんの「^{あがくえん}海の底、華々」。共に作者独自の面白い着眼点が印象的でした。さらに、夜の景色と海底の景色という僅かな光の中の景色を、作者の持つ独特の色彩感覚で色鮮やかに描き出すことに成功しています。その豊かな表現力は見るものを飽きさせない魅力を感じました。

受賞を逃した方々、また、入選を逃した方々の作品の中にも、構成のいい作品、色彩豊かな作品、デッサン力に優れた作品など、魅力のある作品が沢山ございました。絵画に大切な要素をひとつずつ研究し、獲得し、次回もこの公募展にチャレンジしていただければと思います。